

船囲い場跡

木津川、尻無川、安治川は船虫（カキ）を駆除するのに効果があるといわれ、毎年冬には北国航路の和船が休航、係留する習慣があった。とくに木津川は一千艘以上となり混雑したので、船だまりを造る必要があった。西区西長堀の長尾新兵衛が出願して、明治12年4月から、三軒家と難波島との三軒家川を開削する工事にかかったが、コレラの流行や請負業者との紛争で翌13年7月免許取り消しを願い出た。以後大阪府が事業を継承して14年末に完成させた。広さは53,940坪(178,000㎡)あり、難波島町、今木、炭屋、千島、中口、上田、三軒家の各地が開削されたが、明治41年以降は港湾整備が進んで利用が減り、後には貯木池に利用された。

